

HIGH LEVEL LEADERS SESSION II Evolving Trends in Mis- & Dis-Information 概要

- 偽・誤情報対策について、生成 AI による影響、これまでの取組を踏まえた教訓、被害をうけるコミュニティを守るための対応、規制上の課題、情報の生産者・消費者としての在り方について議論されました。
- 偽・誤情報による影響として、例えば、次が挙げられました。
 - ・ 認知過程への浸食、自由な意思の喪失、感情の兵器化
 - ・ 女性、難民、人種的・民族的少数者、LGBTQ+等に対するヘイト
 - ・ 社会の分極化、選挙プロセスの操作、民主主義への脅威
- 偽・誤情報対策として、例えば、次の必要性が示されました。
 - ・ 「デジタル立憲主義」や表現の自由等の人権保護等による共通の原則や価値の共有
 - ・ 国際的な規範
 - ・ エコシステム全体や構造的課題としての対応
 - ・ マルチステークホルダーによる連携・協力、国際的な連携・協力
 - ・ ファクトチェックの推進、国際機関とファクトチェック機関の連携
 - ・ メディアやジャーナリストの役割
 - ・ 「情報的健康」等を通じたりテラシーの向上、市民社会のエンパワーメント
 - ・ 「Originator Profile」等、デジタル署名・電子透かし等による来歴管理等の技術的な対応
 - ・ 「Digital Service Act」等の行動規範や法制等による AI やデジタルプラットフォームにおける透明性の確保等のための規制枠組み
- 2024 年には、複数の民主主義国家において選挙が実施されるなど、今後、偽・誤情報対策は一層重要になっていくとの認識が共有されました。

以上